

Japanese Society for Day Care Treatment
日本デイケア学会

NEWS No.20

日本デイケア学会広報委員会
2010年2月27日 発行
日本デイケア学会事務局
東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F
(有) エム・シー・ミュージズ内
TEL: 03 - 3813 - 6368
FAX: 03 - 3813 - 6368
E-mail: info@daycare.gr.jp
http://www.daycare.gr.jp

「あらためて、デイケア・
デイサービスの意義を問う」

—日本デイケア学会 第15回年次大会
仙台大会の開催にあたって—

大会長 浅野 弘毅 / 副大会長 原 敬造

日本デイケア学会は、精神科デイケアおよび高齢者デイケア・デイサービスの発展と向上を目的に、1996(平成8)年に設立されました。年次大会は、1996(平成8)年の第1回大会(大会長: 故加藤正明先生)以降毎年開催され、過去14回を数えています。

第15回年次大会を、本年仙台でお引き受けすることとなりました。

今日、精神科のデイケアにしる高齢者のデイサービスにしる、数のうえでも、対象とする疾患においても大きな広がりをみせています。しかし、法と制度のめまぐるしい変化のなかで、ともすると方向性が見失われがちになっているのも事実です。仙台大会では「あらためて、デイケア・デイサービスの意義を問う」を大会テーマにかかげ、利用者に喜ばれ、利用者の社会参加に役立てるケアとサービスのあり方について今一度原点に立ち返って討論をし、全国の方々と交流を図りながら学びあいたいと考えております。

学術大会は9月17日(金)・18日(土)の2日間、江陽グランドホテルで開催します。

初日の特別講演には「支えあうということ」と題して、大阪大学総長で哲学者の鷲田清一先生をお招きしました。また、教育講演は東北福祉大学大学院教授・東北大学名誉教授の佐藤光源先生と高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ総合施設長の宮島渡先生にお願いしました。それぞれ「病いと人—精神医療福祉の視点から—」、「多機能

性からみるデイケア・デイサービスのあり方」という題でお話をいただきます。

精神科領域のシンポジウムは、「その人らしく暮らす—精神科デイケアができること—」、また2日目の高齢者領域のシンポジウムは「通うこと 集うこと—高齢者デイケア・デイサービスのこれから—」を予定しています。

2日目のワークショップとしては、「地域生活をフルに楽しもう—役に立つSSTの実際—」(前田ケイ ルーテル学院大学名誉教授)と「こころが踊る、身体もはずむ—高齢者のダンスセラピー—」(大沼幸子 東北福祉大学健康科学部准教授)の2つが計画されています。

一般演題発表に加えて複数のランチョンセミナーも予定しています。

さらに、学術大会前日の16日(木)の午後には、会場の近くで、学会主催の研修会が計画されています。松永宏子中部学院大学教授による「集団(グループ)の力を活用したデイケア実践」と内出幸美社会福祉法人典人会理事・総所長による「認知症高齢者の地域生活支援(デイサービスの実際)」です。

学術大会終了後の19日(日)の午前には、3コースに分かれての施設見学会を開催します。Aコースは、成人を対象とする精神科デイケア施設で、原クリニックと仙台市精神保健福祉総合センター(はあとぼーと仙台)、Bコースは、児童思春期を対象とする精神科デイケア施設で、東北福祉大学せんだんホスピタル、Cコースは高齢者のデイサービス施設で介護老人保健施設せんだんの丘を見学します。

第15回年次大会仙台大会では盛りだくさんのプログラムを用意して、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

2010年1月吉日

日本デイケア学会第14回大会 in 沖縄を終えて

第14回大会長 高江洲 義英

日本デイケア学会第14回大会 in 沖縄は、2009年9月11日(金)12日(土)の両日にわたって、沖縄県宜野湾市(沖縄コンベンションセンター会議棟)において、開催された。大会テーマとしては、「精神のエコロジーとしてのデイケア活動をめざして—多職種・多機能・多技法連携によるプログラム再考」として、インフルエンザの危機にもかかわらず、多くの一般演題があった。

大会第一日目(9月11日)は開会式に引き続いて大会長講演「南島の風土とデイケア活動」と題して大会長の高江洲義英が、沖縄県のデイケア活動の現状と、その背景にある琉球の歴史・文化・風土との関連を紹介した。

引き続き教育講演「自殺予防対策の効率化にむけて—沖縄県のデータをもとに—」(近藤毅、琉球大学医学部精神病態医学分野教授)でわが国の今日的課題へのデイケアの果しうる役割が語られた。

昼食後の一般演題はA、B二会場に分かれて、同時進行し、活発な討議が続いた。同時に、沖縄県内の各病院のデイケア活動が展示、即売会として設置され、好評を得た。

懇親会は隣接するラグナガーデンホテルの大ホールで開催され、諸氏の挨拶や余興、懇親で賑わった。余興の音楽などで沖縄の文化風土を紹介できたかと思っている。

大会二日目は、一般演題と並行して、ミニシンポジウム①「就労支援」(座長、五十嵐良雄、メデイカルケア虎ノ門)、昼食をはさんでミニシンポジウム②「今後の認知症デイケアの向かうところ」(座長、葉室篤、天久台病

院)があり、休憩をへて基調講演「デイケアに求められるもの—ユング心理学の視点から」(山中康裕、京都大学名誉教授、浜松大学大学院教授)さらに、メインシンポジウム「いまデイケアに求められること—多機能を生かしたプログラムの再考—」として仲本晴男(沖縄県立総合精神保健福祉センター所長)、知念襄二(福の木診療所長、沖縄県外来精神科医会長)、佐々木裕光(医療法人恵愛会、福岡病院院長)、南風原泰(医療法人栗山会、飯田病院精神科科長)、座長を高江洲義英が担当し、それぞれの立場から活発な討議となった。

時間一杯の熱心な討論が続き、インフルエンザの流行で開催が危ぶまれた時期であったが、各病院の運営委員の協力でスムーズに全日程を終了した。

30年前の精神医療に比べると、今日の多くの精神科病院は、デイケア、作業療法などを積極的に導入し、スタッフの職種も多岐にわたっている。医師、看護師をはじめ、OT、PT、ST、PSW、CPさらにMT、AT、HT、ヘルパー、介護福祉士、薬剤師、栄養士、そして事務、施設メンテナンスに至るまで医療チームの「組織・制度」が多様化している。

このように「多職種・多機能・多技法複合」としての連携が求められている現在、デイケアの意義と役割を考えつつ、よりよき制度をめざしていきたい。入院、外来、デイケア、中間施設など、「多極構造」としての精神科医療が求められている。

引き受ける時から、理事会に御迷惑をかけ、その後の連絡、運営委員会の組織化、後援、協賛団体の依頼などもすべて後手になってしまったが、何とか内容ある大会にこぎつけたと思う。

多くの皆様の御協力に感謝し、次期大会以降のさらなる発展を祈ります。ありがとうございます。

(沖縄県、医療法人和泉会いずみ病院、理事長)

日本デイケア学会 第15回年次大会仙台大会のご案内

大会テーマ 「あらためて、デイケア・デイサービスの意義を問う」

大会長 浅野 弘毅 (東北福祉大学せんだんホスピタル院長)

大会URL <http://www.daycare15.com/>

会 期 平成22年9月16日(木)～19日(日)

研修会：9月16日(木) 学術大会：9月17日(金) 18日(土) 見学会：9月19日(日)

プログラム

学術大会 日 時：平成22年9月17日(金)・18日(土)

会 場：江陽グランドホテル

参加費：

会 員	事前登録	7,000円
	当 日	8,000円
一 般	事前登録	8,000円
	当 日	9,000円
当事者・家族・学生		3,000円

1. 特別講演 「支えあうということ」

鷺田 清一(哲学者・大阪大学総長)

2. 教育講演 1) 「病いと人—精神医療福祉の視点から—」

佐藤 光源(東北福祉大学大学院教授・東北大学名誉教授)

2) 「多機能性からみるデイケア・デイサービスのあり方」

宮島 渡(高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ総合施設長)

3. 大会長講演 「デイケア・デイサービスのエシックス」

浅野 弘毅(東北福祉大学せんだんホスピタル院長)

4. シンポジウム 1) 「その人らしく暮らす—精神科デイケアができること—」

座 長/池淵 恵美(帝京大学医学部教授)

シンポジスト/関 健(城西病院 理事長)

福地 寿彦(すすかけクリニック院長)

伊澤 雄一(全国精神障害地域生活支援事業協議会代表)

梁田 英磨(東北福祉大学せんだんホスピタル S-ACT)

特別発言/福田 祐典(厚生労働省)

2) 「通うこと 集うこと—高齢者デイケア・デイサービスのこれから—」

座 長/岩尾 貢(特別養護老人ホームサンライフたきの里施設長)

シンポジスト/阪井由佳子(特定非営利法人にぎやか理事長)

中山 康子(在宅緩和ケア支援センター虹代表)

井上 博文(小規模多機能型居宅介護シンフォニー将監)

高橋 幸男(エスポアール出雲クリニック理事長)

5. ワークショップ 1) 「地域生活をフルに楽しもうー役に立つSSTの実際ー」

前田 ケイ(ルーテル学院大学名誉教授)

2) 「ところが踊る、身体もはずむー高齢者のダンスセラピーー」

大沼 幸子(東北福祉大学健康科学部准教授)

6. 一般演題

7. ランチョンセミナー 1) 「高齢者のうつ病 (仮)」 (株)シェリングプラウ協賛

演 者/染矢 俊幸(新潟大学大学院教授)

座 長/松岡 洋夫(東北大学大学院教授)

2) 「認知症について (仮)」 (株)エーザイ協賛

演 者/未定

座 長/未定

8. 企業展示

9. 懇親会

研修会

日 時：平成22年9月16日(木) 14:30～17:30

会 場：ハーネル仙台 参加費：3000円

※事前申し込み定員制 各研修会 100名(先着順 大会 HP より申し込み)

研修会1 「集団(グループ)の力を活用したデイケア実践」

松永 宏子(中部学院大学教授)

研修会2 「認知症高齢者の地域生活支援(デイサービス)の実際」

内出 幸美(社会福祉法人典人会理事・総所長)

施設見学会

日 時：平成22年9月19日(日) 10:00～12:00

会 場：見学会場現地集合 参加費：1000円

※事前申し込み定員制 各コース 20名(先着順 大会 HP より申し込み)

Aコース：原クリニック・仙台市精神保健福祉総合センター(はあとぼーと仙台)(精神科デイケア 成人)

Bコース：東北福祉大学せんだんホスピタル(精神科デイケア 児童思春期)

Cコース：せんだんの丘(介護老人保健施設 デイサービス)

演題募集について

日本デイケア学会第15回年次大会では、デイケアに関する演題を広く募集します。

演題および抄録原稿の締切日は、平成22年4月30日(金)までを予定しております。演題を申し込まれる方は、大会ホームページの演題募集をご確認下さい。抄録原稿作成などの詳細についても大会ホームページをご参照下さい。

《募集要項》

- 演題発表は口述のみ。口述1演題につき質疑応答を含め15分を予定しております。(発表は12分以内)。
- 口述発表は、口述のみ、またはPCプレゼンテーション(MicrosoftPowerPointー2008まで)を原則と致します。(スライド・OHP等の準備は致しません。また、PCプレゼンテーションはWindows VISTAまでに限らせて頂きます。パワーポイント使用時の動画・音声も使用できます。)

大会参加事前登録について

大会参加事前登録の締切日は平成22年6月30日(水)までを予定しています。研修会、施設見学会は事前登録者を優先に、定員に達した時点で募集を締め切ります。ご希望の方は大会ホームページからお申し込みください。

デイケア 西から東から、北から南から…

今回の「デイケア 西から東から…」は入職されて1年から2年位の方々の、思い描いていること・疑問・意識していること、または夢などの日常で思っていることを掲載させていただきました。日々働いている現場では、地域との連携、職種間の視点のズレ、長期化、個々の多様なニーズに沿ったケア、利用者から学ぶこと、日常業務に追われている様子、疑問を感じながら自分なりに工夫をし、利用者とともに夢を追い求め、奮闘し試行錯誤していることが伝わりました。

これを読んで、自分がしっかりと疑問をもち、利用者から学ぶ姿勢が出来ているのか？ チームの一員として何ができているのか？ 等を、振り返る機会にさせていただければと思います。引き続き日常において「こんな工夫したら成功した」「残念ながらうまくいかず現実とのギャップを感じ、そんな時にチームの先輩や同僚に相談し、こんなアドバイスを受け乗り切った」「色々な場面で応用できた」または「解決できなく困っている」などについて、会員の皆様に執筆を依頼いたしますので今後ともよろしく願いいたします。勿論、自主的投稿も歓迎です。

(広報委員会一同)

「働きたい」を支える

山田 千寿子(作業療法士)

私は青森県八戸市にある医療法人清照会湊病院に勤務しております。当院のデイケアセンターは高齢者対応の介護予防を目的としたデイケア、病状の安定・生活技能の獲得を目的としたデイケア、そして私が所属している就労するための動機付けや技能の獲得を目的としたデイケアを機能別に3箇所に分けて実施しております。

就労を目的としたデイケアの役割は働きたい希望をもつ利用者を次のステップへスムーズに送り出すことでもあります。就労を前提とすると利用者には安定した生活を送れる技能に加え、職場に適應するためのより高度な技能が求められます。個々の多様な症状、ニーズに沿ったケアを実践するためには幅広い知識や質の高い援助技術が必要であるのはもちろんのこと、デイケアのみで完結しないための工夫が必要です。そのため、法人内に設置されている就労移行支援事業所と就業・生活支援センターと密に連携を取っております。

『働きたい』と明確に動機をもつ利用者は短期間で次のステップへ移行しております。しかしほとんどの利用者は障害特性からなのか『いつかは働きたい』と言いながらもデイケアへの参加が長期化する傾向にあります。中には、再発・再入院により就労を継続できなくなり、就

労に対して臆病になっている利用者もいます。このような利用者に対し、どのように関わっていくかが今後の課題であると感じています。このような就労動機を明確にもてない利用者や失敗体験から就労に臆病になっている利用者に対し、『いつか働きたい』から『今にでも働きたい』と思えるよう、意欲や自信を高める関わりがさらに求められていることを常に意識しながら今後も奮闘していきたいと思っております。

(青森県 湊病院 社会復帰部デイケアセンター)

「日々の実践と思い」

生活・就労支援デイケア 田中 夏子(課長)
復職支援デイケア 時田 陽介、長 千晴(看護師)

精神科デイケアの定義は、精神障害者の社会生活技能の回復を目的に、患者個々の症状等に応じて作成したプログラムに従い、グループごとに治療・患者の症状等に応じたプログラムの作成効果判定等に万全を期すること・厚生労働大臣の定める施設基準に適合している保険医療機関である(eらぼーる 精神科医療制度・法律から)。

当院デイケアは、復職支援デイケアと就労デイケアを同フロアで進めている。共通プログラムもあり、相互に良い刺激になっている。復職に向けて取り組む姿を目の

当たり前にして、就職やバイトへの意欲につながった事例や、就職やバイトを目指す姿を見て、自分は何のために働くのかという原点に立ち返り復職への意欲を高めた事例もある。時には比較して劣等感を抱くことも見られるが、そこは本人が変われる機会という視点で関わるができる。利用者の相互作用は予測できないほどの効果を生むことも多く、私たちのモチベーションになっている。

プログラムは、認知行動療法・心理教育・運動・オフィスワークに大別される。2010年1月現在の実施プログラムは、全33種。アウトリーチへの興味も感じつつ、グループワークに力を入れて2年半が経過した。日々、プログラムの準備と運営、情報の収集と伝達、必要書類の作成に追われている印象は否めない。

開所当初は、職種により視点が異なる点を方針のズレと感じたこともあったが、振り返ると、何を核に考えるのか共有できておらず、理解しようとする基本姿勢も欠けていたように思う。今は、チーム力こそデイケアの強みと実感している。時に厳しいディスカッションも続くが、利用者個々の課題や目標を核とし、知識と理解を深められる連携を目指している。連携の生き死に関わる「個々人のスキルアップ」は、これからも変わらない課題である。

デイケアは、医療機関内で登録者のみが集まるという、ある種の安心が保証された特殊なスペースである。簡単ではないが大切な機能のひとつは、「緊張感やストレスとの付き合い方への取り組み」と「課題や目標」との関係性を明確にすることである。「社会に戻る準備期間を過ごす場」というよりは「必要な力を伸ばす一手段として活用する場」と意識したい。利用者が病気にばかり目を向けるのではなく、健康な部分や良いところを伸ばす視点で自分の状況を観察しながら、行動を選択できる。そうした関わりをスタッフとして意識している。

私たちの考えるデイケアの定義は『ハブ空港』、休憩所というよりは通過点であり、パワーを供給して次の機会を伺う所、様々な目的の利用者が自分の利用方法を考えて自分が欲しい部分を貰っていく所である。一番大切なのは、卒業や復帰がみえるガラス張りのデイケアであることと感じ、目指している。

(千葉県 森メンタルクリニック デイケア)

デイケア実践で 日頃感じていること

桂田 舞(精神保健福祉士)

平成20年2月から病院デイケアでPSWとして働き始めました。以前は、特別養護老人ホームで介護職を5年していました。自分自身がご飯を食べたりお風呂に入った布団に横になって休んだりするのと同じ感覚で、目の前の人に食事介助・入浴介助など介助ができるようになればそこで介護職として一区切りだ、と自分勝手に思っていたらあつと言う間に5年経ちました。前職では、入所施設であったため対象者も介護職も外に出ることがなく、他の社会資源と関わる機会がほとんどありませんでした。だから、私の中では『(目の前の人たちにとっての)環境=私自身』という気持ちがありました。環境を良くしたいと思ったら、それはそのまま私が良くしていくこと・私自身が良くなっていくことでした。生活上の基本的なニーズ(食事・排泄・入浴)、自分らしい時間の過ごし方、落ち着ける空間等々は、すべて個別に違うものでした。

そんな世界から精神科領域に移り、今、デイケアで働き始めてちょうど2年を迎えます。メンバーさん一人ひとりと関わりをもつ過程にいます。関わり大切さは、何かエピソードがあってその瞬間に膝を叩いて大切さを納得したというよりは、自然に体に沁み込んできたという感覚です。

メンバーさん一人ひとりの生活はデイケアが全てでなく、『病者・障害者』が個の全てではありません。私の生活全てがデイケアでなく、私は『PSW』が個の全てではありません。デイケア実践を通して、デイケアの中だけの『病者・障害者』としてだけのメンバーさんと『PSW』というだけの私に関わる、そんな枠はないと感じるようになりました。デイケアでの関わりの中で、私自身の視点が変わっています。

メンバーさんとの関係性のおもしろさ、メンバーさん同士の関係性のおもしろさを日々感じて実践しています。そのメンバーさんとの関係を軸にこれからどうしていくのがいいのでしょうか。これから私自身の視点や関係性がどんな風に変化していくのか楽しみです。

(大阪 浅香山病院 A館デイケア)

スポーツを通して 成長することは多くある

塩谷 岳二(精神保健福祉士)

デイケアに勤務を始めて半年以上がたった。私が思うデイケアの良いところは、病棟と違った雰囲気があるということである。デイケアで過ごす時間はのんびりして居心地が良く、メンバーさんにとっては安心できる場所だと思う。プログラムでは運動をすることもあるが、メンバーさんと一緒に体を動かし、コミュニケーションをとっている中で一つの夢ができた。それは、小学校2年生から大学2年生の途中までずっと野球をやっていたため、“いつかデイケアのメンバーさんでチームを作って野球やソフトボールの試合をする”ということである。以前からメンバーさんの様子を見ていて、野球の好きな人や体を動かすのが好きな人がいるにも関わらず、体を

動かさないのはもったいないと思っていた。スポーツを通して成長することはたくさんあり、特にチーム全員が一生懸命やって勝ち取った勝利は、普段の生活では体験できない喜びを味わえると思う。そういったことから“生きがい”が生まれ、治療にもつながっていくのではないだろうか。

月に1度、スタッフとメンバーさんで、デイケアに対する要望等について話し合うミーティングがあるが、発言する人が一部の人にかたよっているのが少し気になる。メンバーさんの中には人前で話すことが苦手な方もいるが、少しでも自分の意見を発言できるように、一人一人に合った声かけをする必要があると思うし、発言できるような雰囲気を作っていくことが大切だと思う。これからも、今まで以上にメンバーさんとコミュニケーションをとり、メンバーさんと一緒にデイケアを作り上げていきたい。
(岐阜県 大垣病院)

日本デイケア学会では、平成22年度診療報酬改定案に対し、要望書を提出いたしました。詳細につきましては日本デイケア学会ホームページをご覧ください。HPアドレス：<http://www.daycare.gr.jp>

日本デイケア学会役員

理事長：窪田 彰

副理事長：浅野弘毅, 松永宏子

理事：荒田 寛, 池淵恵美, 榎本 稔, 柏木 昭, 栗原 毅, 佐々木裕光, 澤 温, 関 健, 高江洲義英, 竹中秀彦, 谷山純子, 直江裕之, 西村良二, 野中 猛, 原 敬造, 福島正人, 古屋龍太

監事：齋藤和子, 弘末明良

事務局長：小野寺敦志

評議員(地区別、五十音順)：

北海道・東北地区●浅野弘毅(DR), 下出道弘(DR), 直江裕之(DR), 中野英子(PSW), 原 敬造(DR)

関東地区●浅井邦彦(DR), 池淵恵美(DR), 榎本 稔(DR), 柏木 昭(PSW), 窪田 彰(DR),

栗原 毅(心理), 佐藤 妙(PSW), 野中 猛(DR), 古屋龍太(PSW), 松永宏子(PSW)

中部地区●竹中秀彦(PSW), 福与秀文(PSW)

北陸・信越地区●岩尾 貢(SW), 小田良光(PSW), 関 健(DR)

近畿地区●荒田 寛(PSW), 出田俊三(心理), 澤 温(DR), 福島正人(DR)

中国・四国地区●大森文太郎(DR), 谷山純子(DR), 津尾儀典(DR)

九州地区●河野耕三(DR), 佐々木裕光(DR), 高江洲義英(DR), 西村良二(DR)

委員会

組織委員会委員長：古屋龍太

委員：榎本 稔, 竹中秀彦, 津尾佳典, 野中 猛, 弘末明良

広報委員会委員長：松永宏子

委員：小谷野博, 坂田直之, 下出道弘, 丹野きみ子, 福与秀文

研修委員会委員長：栗原 毅

委員：井上牧子, 福島正人, 荒田 寛, 佐藤 妙, 岩尾 貢

編集委員会委員長：浅野弘毅

委員：岩下 寛, 大沼幸子, 荻澤健志, 小野寺敦志, 齋藤敏靖, 西村良二, 中野英子

査読：池田良一, 松田ひろし, 松永宏子, 山中恵子, 是恒正達(英文)

調査研究委員会委員長：佐々木裕光

委員：河野耕三, 澤 温, 関 健, 直江裕之, 原 敬造

日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約1,000名の会員がおり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 入会申込書、入会案内、会則、および郵便振込用紙をお送りいたしますので、下記事務局までご連絡ください。
2. 入会金および年会費
 正会員：入会金 1,000円 + 年会費 8,000円
 団体会員：3名までは、入会金 5,000円 + 年会費 20,000円（登録者名の変更は適宜可能）
 （3名を越えるときは、1名につき年会費 5,000円を加算してください）
3. 資格（会則の一部を引用します）
 正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。
 団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。
4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F (有)エム・シー・ミュージズ内
 日本デイケア学会事務局
 TEL&FAX：03-3813-6368
 E-mail：info@daycare.gr.jp URL：http://www.daycare.gr.jp

----- キリトリ線（ご記入いただき、郵送あるいはFAXで事務局までお送り下さい。） -----

入会申込書

申込日 平成 年 月 日

(正会員用)

氏名		性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日
職種		所属先名称 (勤務先)						
所属先所在地	〒			電話番号	()			

(団体会員用)

団体名		代表者						
所在地	〒							
種別		TEL	()			FAX	()	

デイケア従事者(計 名) ※デイケア従事者より会員登録となります。

氏名	フリガナ	氏名	フリガナ
氏名	フリガナ	氏名	フリガナ